

第2次ながおかヘルシープラン21 最終評価報告

長岡市福祉保健部健康課



目次

- | | |
|----------------------------|-------|
| 1. 第2次ながおかヘルシープラン21の概要 | p. 1 |
| 2. 本市の状況 | p. 2 |
| 3. 最終評価について | p. 4 |
| 4. 最終評価（重点項目）における目標達成状況の概要 | p. 6 |
| 5. 最終評価のまとめ | p. 26 |

資料編

- ・ 第2次ながおかヘルシープラン21重点目標に対する指標の評価

1. 第2次ながおかヘルシープラン21の概要

1. 第2次ながおかヘルシープラン21の目的

長岡市は、平成15年度に「ながおかヘルシープラン21（第1次健康増進計画）」を策定し、「人とひと 輝く笑顔がはぐくむ 健康なまちながおか」の実現を目指して取り組みを進めてきた。

第1次計画策定後、少子高齢化の急激な進展や、生活習慣病の増加、3度の市町村合併による市域の拡大など、市民を取り巻く状況は大きく変動している。

第2次ながおかヘルシープラン21は、このような変化に対応し、これまでの健康づくりの取り組みの評価と、世代ごとのありたい姿を再確認し、市民一人ひとりがそのありたい姿に向かって主体的に取り組むために策定したものである。

2. 計画の期間

平成25年4月～令和6年3月

※国の方針に合わせ、第2次ながおかヘルシープラン21の計画期間を1年延長し、令和5年度までとした。

3. 計画策定と推進の視点

第2次ヘルシープラン21は、1次計画に引き続き、以下の3つの視点に立って計画の策定と推進を行っている。

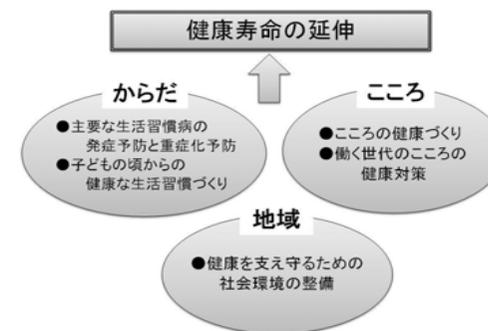
- ① 市民参画（市民一人ひとりが主体となった健康づくりが進められるよう参画）
- ② 様々な組織や機関の連携（推進体制の整備）
- ③ 環境づくり（市民の主体的な健康づくりを支えるための環境づくり）



4. 各世代のありたい姿と目標値の設定

病気の予防対策にとどまらず、家庭・地域社会・行政が一体となり個人の健康が守られるまちづくりを進めるという視点を取り入れ、乳幼児期から高齢期までの各世代と全世代共通の環境分野に応じたありたい姿を設定した。また、ありたい姿は、大きく「からだ」「こころ」「地域」の3つの区分でくくっている。

各世代のありたい姿に向かって、一人ひとりが健康づくりに主体的に取り組めるよう、より具体的な「健康目標」を設定し、その「健康目標」を実現するために、どのような行動をしたらよいかという目標と具体的な目標値を設定している。



※健康寿命:健康上の問題で日常生活が制限されることなく、生活できる期間をいう

2. 本市の状況

○ 本市の人口

長岡市の人口は、長岡市住民基本台帳によると令和3年4月1日現在265,171人で、10年前の平成23年4月1日より16,928人（6.0%）減少した。令和3年4月1日現在の年齢3区分人口の構成割合は、年少人口（0～14歳）が31,259人で11.8%、生産年齢人口（15～64歳）が150,474人で56.7%、老年人口（65歳～）が83,438人で31.5%だった。老年人口の割合が、平成23年より6.2ポイント増加しており、超高齢社会となっている。

	平成23年		平成28年		令和3年	
	人数	割合	人数	割合	人数	割合
年少人口（0～14歳）（人）	37,254	(13.2%)	34,524	(12.5%)	31,259	(11.8%)
生産年齢人口（15～64歳）（人）	173,575	(61.5%)	161,079	(58.5%)	150,474	(56.7%)
老年人口（65歳～）（人）	71,270	(25.3%)	79,758	(29.0%)	83,438	(31.5%)
合計	282,099		275,361		265,171	

※4月1日基準

○ 出生の動き

出生率の推移をみると、全国、新潟県、長岡市で減少傾向にある。長岡市の出生率は、新潟県と比べて高いが、全国と比べると下回っている。また、合計特殊出生率※は、10年前と比較すると減少しているが、全国、新潟県より上回っている。

※合計特殊出生率…15歳から49歳までの女子の年齢別出生率を合計したもので、1人の女子が仮にその年次の年齢別出生率で一生の間に産むとしたときの子ども数

区分 年	出生						合計特殊出生率		
	長岡市		新潟県		全国		長岡市	新潟県	全国
	実数 (人)	率 (人口千対)	実数 (人)	率 (人口千対)	実数 (人)	率 (人口千対)			
平成23年	2,274	8.1	17,667	7.5	1,050,806	8.3	1.50	1.41	1.39
平成28年	1,978	7.2	15,737	6.9	977,242	7.8	1.47	1.43	1.44
令和2年	1,618	6.1	12,981	5.9	840,835	6.8	1.36	1.33	1.33

資料：新潟県福祉保健部 令和3年福祉保健年報（令和2年度版）

2. 本市の状況

○ 死亡の動き

令和2年の長岡市の死亡数は3,468人で、平成23年から増加傾向にある。長岡市の人口千人に対する死亡率は、平成23年より1.7ポイント、平成28年より0.8ポイント上回っており、新潟県より低いものの、全国より高い水準で推移しています。

区分 年	死亡					
	長岡市		新潟県		全国	
	実数 (人)	率 (人口千対)	実数 (人)	率 (人口千対)	実数 (人)	率 (人口千対)
平成23年	3,214	11.4	27,320	11.6	1,253,068	9.9
平成28年	3,356	12.3	28,822	12.7	1,308,158	10.5
令和2年	3,468	13.1	29,455	13.5	1,372,755	11.1

資料：新潟県福祉保健部 令和3年福祉保健年報（令和2年度版）

○ 死亡原因別順位

令和2年の長岡市の主な死亡原因では、がん（悪性新生物）が最も高く、全死因の約38.9%を占めています。次いで高いのは心疾患で、全死因の21.6%となっています。

【長岡市の死亡原因別順位の推移】

（単位：人）

	第1位		第2位		第3位		第4位		第5位	
平成23年	悪性新生物	875人	心疾患	557人	脳血管疾患	451人	肺炎	249人	老衰	165人
平成28年	悪性新生物	872人	心疾患	519人	脳血管疾患	357人	老衰	336人	肺炎	226人
令和2年	悪性新生物	901人	心疾患	501人	老衰	432人	脳血管疾患	348人	アルツハイマー病	134人

資料：新潟県福祉保健部 令和3年福祉保健年報（令和2年度版）

3. 最終評価について

第2次ながおかヘルシープラン2 1の最終評価項目は、計画策定時に設定した、各世代で重点的に取り組む目標の目標値項目に対する実績を適切に評価し、以下の5段階で評価するものとします。

また、第2次計画の評価のまとめ及び次期プランに向けた課題を整理します。

・策定時の値と令和3年度実績値（調査未実施等の場合は直近値）を比較	A	十分達成した
	B	おおむね達成している
	C	達成がやや不十分
	D	まったく達成できていない
	E	評価困難

※策定時と現在の社会情勢の変化や当市の取組を考慮し評価

3. 最終評価について

【重点的な取り組みの概要図】



※ () は評価項目数

合計125項目 (うち再掲16)

4. 最終評価（重点項目）における目標達成状況の概要

重点項目の評価状況

策定時のベースライン値と最終評価の実績値を比較		項目数
A	十分達成している	11
B	おおむね達成している	23
C	達成がやや不十分	23
D	まったく達成できていない	15
E	評価困難（※）	37
合計		109

※評価困難とは、社会情勢の変化や新型コロナウイルス等の影響により、対象数値が存在せず、評価ができなかった項目

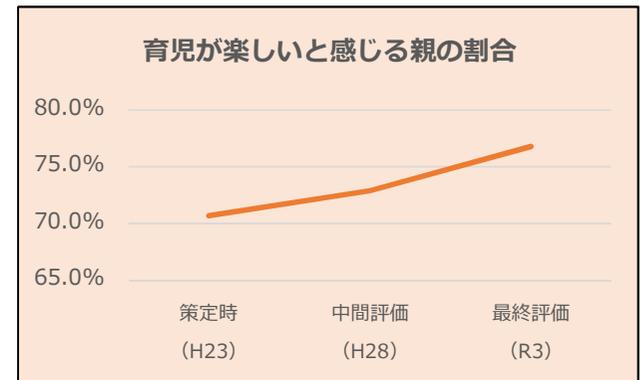
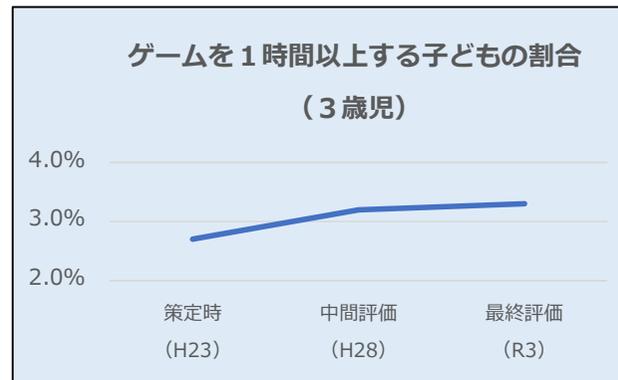
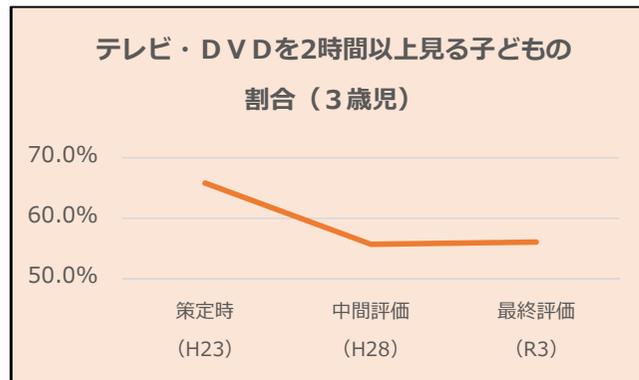
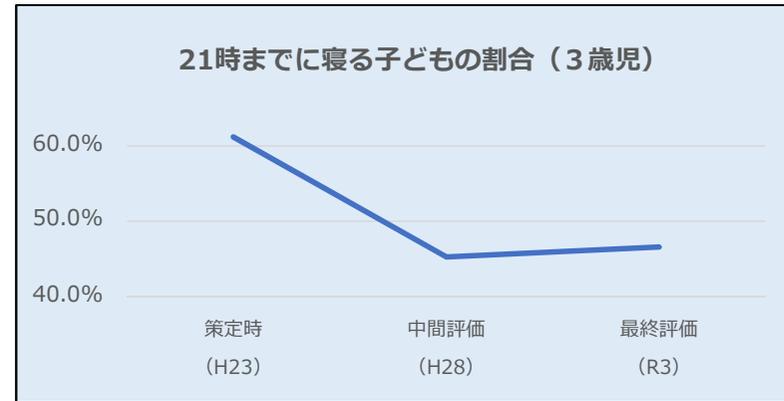
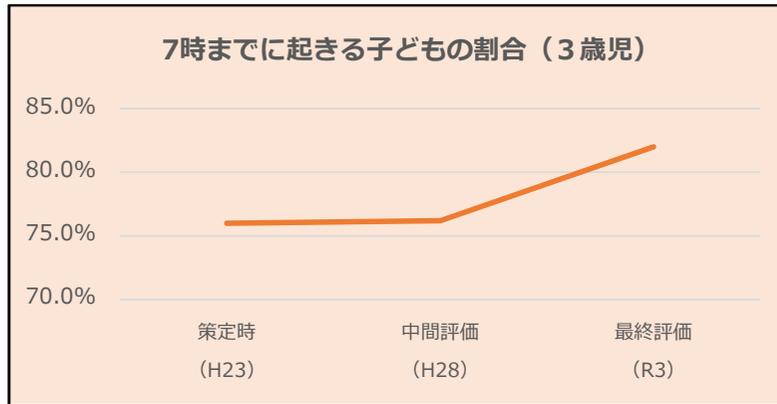
最終評価（重点項目）における目標達成状況の概要① 乳幼児期（0～6歳）

項目	評価
○すくすく育つ	
・ 基本的な生活習慣を身につける	
・ 早寝早起きなど生活リズムを確立する	
① 7時までに起きる子どもの割合	A
② 21時までに寝る子どもの割合	D
③ テレビ・ビデオを二時間以上見たり、ゲームを一時間以上している子どもの割合	C
④ 毎日便通のある子どもの割合	E
・ 食事のマナーを身につける	
① 食事のマナーに気をつけている家庭の割合	E
② 食事の時にテレビをつけていることが多い家庭の割合	A
・ バランスの良い食事をする	
① 好き嫌いが多い子どもの割合	E
② 3食、主食・主菜・副菜がそろった食事をする子どもの割合	D
・ 親子で外遊びを楽しむ	
① 天気の良い日に外遊び又は散歩している子どもの割合	B

最終評価（重点項目）における目標達成状況の概要① 乳幼児期（0～6歳）

項目	評価
○のびのび育つ	
・親子のスキンシップが十分ある	
スキンシップ（ふれあい）が十分にある親子の割合	E
・親子でゆったり遊ぶ	
親子でゆっくり過ごす時間のある家庭の割合	C
・家族みんなで食事をする	
親子で1日1回以上食事をする家庭の割合	E
○こころにゆとりを持って子育てができる	
・家庭や地域で安心して楽しく子育てできる	
①長岡が子育てしやすいまちだと思ふ人の割合	A
②育児が楽しいと感じる親の割合	B
・地域みんなが気軽に声をかけ合う	
①町内会や子ども会等の地域活動に参加している人の割合	E
②親子サークル、子育て支援センター、子育ての駅、体操教室に参加している親子の割合	A
・子育て中でも仕事や自分の時間を持つ	
①育児休業を取る人の割合	B
②子育て中でも仕事をしたり、自分の時間が持てる親の割合	E
③子どもを預けたい時に預けられる親の割合	C

※最終評価の数値が策定時より改善された項目は赤色、改善されていない項目は青色で表示。



乳幼児期は、人生の基礎となるからだとこころを育み、健康でいきいきとした生活を送るための基本的な生活習慣や社会性を身につける極めて重要な時期です。

○計画策定時と比べ生活リズムは、8割の子が午前7時までに起床しているが、21時までに就寝する子は5割以下であり、10年前より遅い就寝時間の子が増えている。また、テレビ・DVDの視聴は減っているが、ゲームを1時間以上する子の割合は増えており、今後さらに食事、睡眠、遊びなどの生活リズムを整えることは成長発達のために重要であることを周知啓発する必要がある。

○親子で外遊び等を楽しむ人や育児が楽しいと感じる親が増えており、また、3歳児健診時の問診では96%の人が「この地域で今後も子育てをしたい。」と回答していることから、長岡が子育てしやすいまちとなっていることがうかがえる。

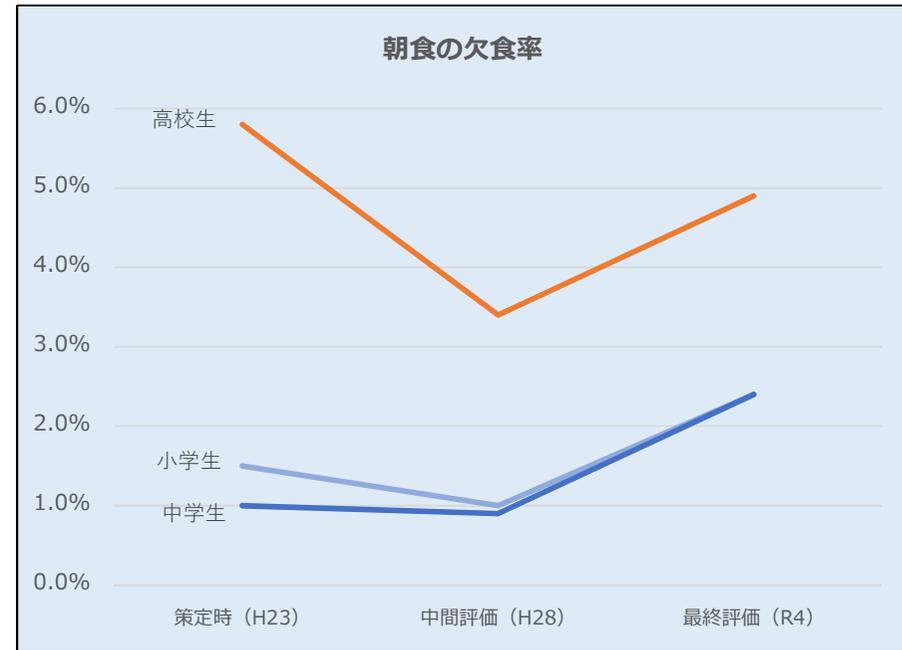
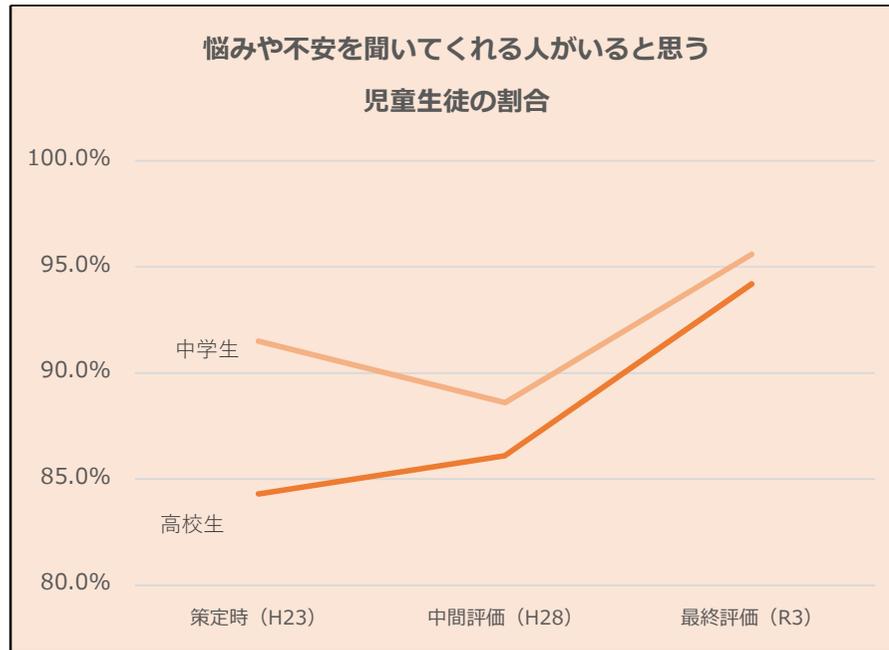
最終評価（重点項目）における目標達成状況の概要② 学童思春期（7～18歳）

項目	評価
○元気な身体をつくる・病気にならない	
・望ましい食習慣を身につける	
・間食は質と量と時間を考えて食べる	
①夕食に影響のあるおやつを食べ方をしている児童・生徒の割合	E
②夕食後、夜食を毎日食べる児童・生徒の割合	E
・三度の食事をきちんとする	
①朝食の欠食率	C
②主食・主菜・副菜がそろった食事が1日に2食以上の児童・生徒の割合	B
③野菜を1日に2回以上食べる児童・生徒の割合	B
④朝食や夕食を家族と一緒に食べる児童・生徒の割合	C
・運動を楽しみ、体力が向上する	
①身体を動かすことが好きな児童・生徒の割合	B
②児童・生徒の体力	B
・スポーツや遊びで身体を動かす	
①学校の体育の他に運動や身体を動かす遊びなどを週3回以上している児童・生徒の割合	E
②スポーツ少年団参加人数	C

最終評価（重点項目）における目標達成状況の概要② 学童思春期（7～18歳）

項目	評価
○前向きに充実した生活を送る	
・自分なりの目標を持ち、目標に向かって意欲を持って取り組める	
・自分の気持ちを表現する	
①悩みや不安を聞いてくれる人がいると思う児童・生徒の割合	A
②自分の意見を素直に言うことができる児童・生徒の割合	E
・困難を克服しようと努力する	
困難に直面したときに、克服しようと努力する児童・生徒の割合	E
・自分が打ち込めるものを持つ	
自分が打ち込めるものがある児童・生徒の割合	E

※最終評価の数値が策定時より改善された項目は赤色、改善されていない項目は青色で表示。



学童・思春期は、からだやこころの成長が著しく、あらゆる生活習慣や社会性を身につけ、家族や友人、地域の人々とコミュニケーションをとりながら、自分で考え、判断・行動できる大人への移行期であり、悩みや不安も抱える時期です。

○計画策定時と比べ、悩みや不安について、相談できる児童は増加しているが、今後更に相談しやすい環境づくりが必要である。

○小、中学生の朝食の欠食率が増加した。生活リズムの乱れが、朝食に影響していると考えられる。食生活を形成する大切な時期であるため、家庭、地域、学校等関係機関と連携した健康づくりへの支援が必要である。一方で、高校生の朝食の欠食率は、策定時(H23)と比較するとやや改善傾向にあり、小、中学生からの食教育により意識が向上したことが考えられる。

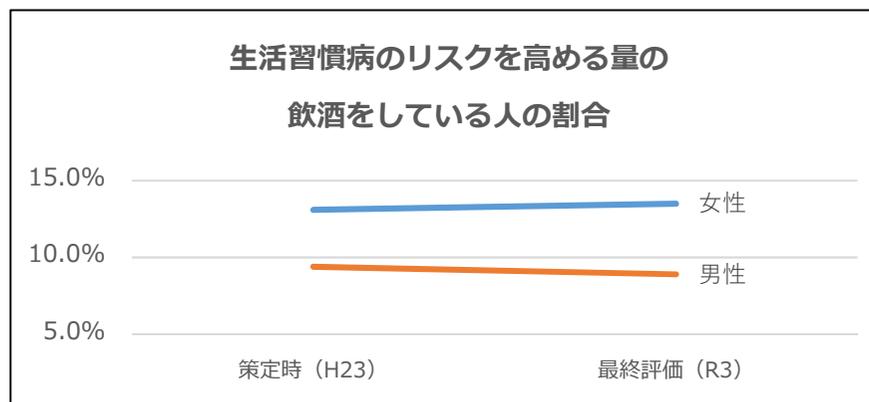
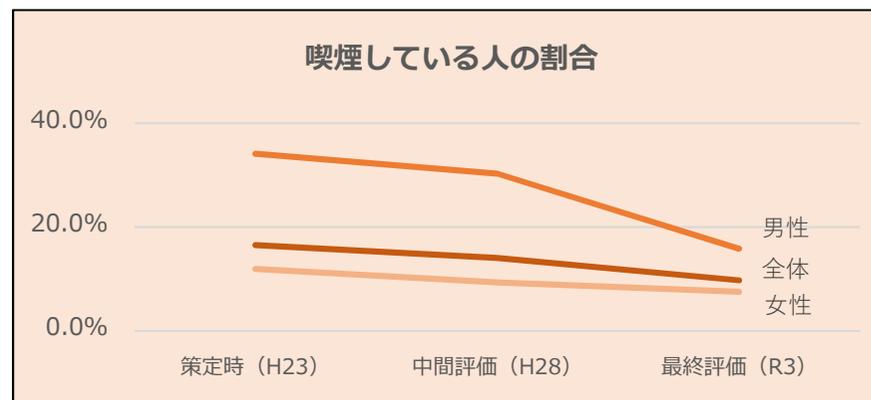
最終評価（重点項目）における目標達成状況の概要③ 青年期（19～39歳）

項目	評価
○病気になるずに元気に過ごす	
・生活習慣病を予防できる	
①高血圧の人の割合	C
②脂質代謝異常の人の割合	D
③糖代謝異常の人の割合	D
④適正体重を維持をしている人の割合	C
・定期的に歯科を受診する	
定期的に歯科を受診している人の割合	A
・自分にあった質と量の食事をする	
①主食・主菜・副菜がそろった食事が1日2回以上の人の割合	D
②朝食の欠食率	D
③食事を作る習慣がある人の割合	E
・喫煙しない	
①喫煙している人の割合	A
②受動喫煙（家庭・職場）の機会を有する人の割合	E
・年1回、健康診断を受ける	
①1年に1回健康診断を受ける人の割合	E
②各種検診受診率	C
・生活の中で身体を動かす	
①運動習慣がある人の割合（1回30分以上、週2回以上、1年以上）	B
②1日の平均歩数	D

最終評価（重点項目）における目標達成状況の概要③ 青年期（19～39歳）

項目	評価
<ul style="list-style-type: none"> ・過度な飲酒量を守る 	
<ul style="list-style-type: none"> <ul style="list-style-type: none"> 生活習慣病のリスクを高める量の飲酒をしている人の割合 	C
<ul style="list-style-type: none"> ・規則的な生活を送る 	
<ul style="list-style-type: none"> <ul style="list-style-type: none"> 睡眠で休養をとれている人の割合 	C
○仲間と仕事や余暇を楽しみ生活に充実感がある	
<ul style="list-style-type: none"> ・ストレスに対処できる 	
<ul style="list-style-type: none"> <ul style="list-style-type: none"> ①ストレスを感じている人の割合 	E
<ul style="list-style-type: none"> <ul style="list-style-type: none"> ②ストレスがあったときにうまく対処している人の割合 	E
<ul style="list-style-type: none"> <ul style="list-style-type: none"> ③自殺者数 	C
<ul style="list-style-type: none"> ・過度な飲酒量を守る（再掲） 	
<ul style="list-style-type: none"> <ul style="list-style-type: none"> 生活習慣病のリスクを高める量の飲酒をしている人の割合（再掲） 	C
<ul style="list-style-type: none"> ・規則的な生活を送る（再掲） 	
<ul style="list-style-type: none"> <ul style="list-style-type: none"> 睡眠で休養をとれている人の割合（再掲） 	C
<ul style="list-style-type: none"> ・家族・仲間とコミュニケーションをとる 	
<ul style="list-style-type: none"> <ul style="list-style-type: none"> ①家族・仲間との会話がある人の割合 	E
<ul style="list-style-type: none"> <ul style="list-style-type: none"> ②自分の意見を主張でき、相手の意見も受容できる人の割合 	E
<ul style="list-style-type: none"> <ul style="list-style-type: none"> ③サークル活動に参加している人の割合 	E
<ul style="list-style-type: none"> ・こころの悩みを相談する 	
<ul style="list-style-type: none"> <ul style="list-style-type: none"> こころの悩みがあるときに相談する人の割合 	E

※最終評価の数値が策定時より改善された項目は赤色、改善されていない項目は青色で表示。



青年期は、学生から社会人となり、結婚して家庭を築き、子どもの誕生で親としての責任も加わり仕事や子育てなど多忙な時期であり、からだの面では不調が始め、こころの面では育児や仕事のストレス、将来へ不安を抱える時期です。

○朝食の欠食率は、特に20歳代の欠食率が高い傾向にある。夕食時間が遅いことや、朝の起床時間の遅れ等の生活リズムの乱れが要因として考えられる。

○喫煙者の減少は、受動喫煙対策の強化に伴い、施設において敷地内等禁煙措置が講じられたことや、たばこの価格上昇等の社会情勢が理由として考えられる。

○生活習慣病のリスクを高める量の飲酒をしている人の割合は、男性女性ともに横ばいではあるが、策定時と比較して改善したとは言えない。次期計画でも、改善に向けて引き続き取り組む必要がある。

最終評価（重点項目）における目標達成状況の概要④ 壮年期（40～64歳）

項目	評価
○病気になるずにやりたいことができる	
・糖尿病にならない又は重症化しない	
①糖代謝異常の人の割合	B
②糖尿病性腎症患者数（人工透析全患者数）	C
・毎食後歯磨きをする	
①毎食後歯磨きをする人の割合	C
②歯間清掃用具を使用している人の割合	A
・定期的に歯科を受診する	
①定期的に歯科を受診している人の割合	A
②歯周疾患検診受診率	B
・喫煙しない	
①喫煙している人の割合	C
②受動喫煙（家庭・職場）の機会を有する人の割合	E
・生活の中で身体を動かす	
①運動習慣がある人の割合	B
②1日の平均歩数	C
・自分にあった質と量の食事をする	
①野菜を1日に2回以上食べる人の割合	D
②1日の塩分摂取量	C
③主食・主菜・副菜がそろった食事が1日2食以上の人の割合	C

最終評価（重点項目）における目標達成状況の概要④ 壮年期（40～64歳）

項目	評価
・年に1回健康診断を受ける	
① 1年に1回健康診断を受ける人の割合	E
② 各種検診受診率	D
③ 特定保健指導実施率	D
・適度な飲酒量を守る	
生活習慣病のリスクを高める飲酒をしている人の割合（男性2合以上、女性1合以上）	C
・適度な睡眠を確保する	
睡眠で休養を十分にとれている人の割合	B
・動脈硬化を予防できる	
① 高血圧の人の割合	C
② 脂質代謝異常の人の割合	D
③ 脳血管疾患のSMR（脳内出血・脳梗塞の標準化死亡比）	D
④ 虚血性心疾患のSMR（急性心筋梗塞の標準化死亡比）	B
⑤ 肥満の人の割合	D
・喫煙しない（再掲）	
① 喫煙している人の割合（再掲）	C
② 受動喫煙（家庭・職場）の機会を有する人の割合（再掲）	E
・生活の中で身体を動かす（再掲）	
① 運動習慣がある人の割合（再掲）	B
② 1日の平均歩数（再掲）	C

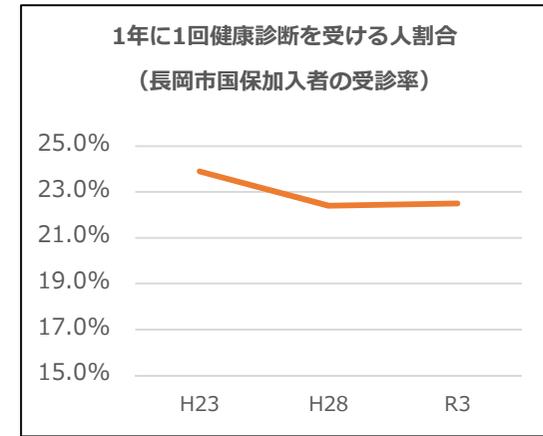
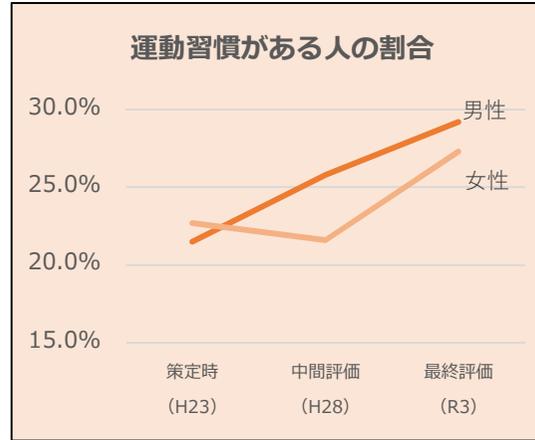
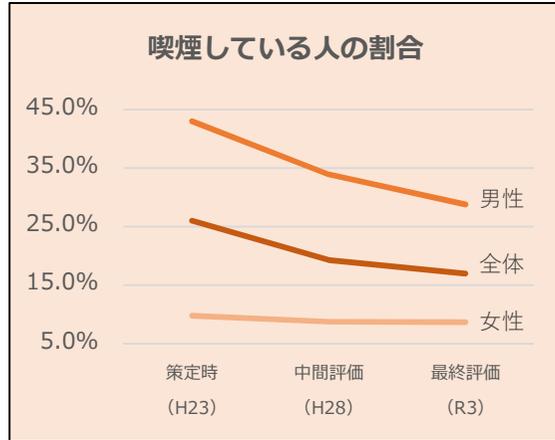
最終評価（重点項目）における目標達成状況の概要④ 壮年期（40～64歳）

項目	評価
・自分にあつた質と量の食事をする（再掲）	
①野菜を1日に2回以上食べる人の割合（再掲）	D
②1日の塩分摂取量（再掲）	C
③主食・主菜・副菜がそろった食事が1日2食以上の人の割合（再掲）	C
・年に1回健康診断を受ける（再掲）	
①1年に1回健康診断を受ける人の割合（再掲）	E
②各種検診受診率（再掲）	D
③特定保健指導実施率（再掲）	D
・適度な飲酒量を守る（再掲）	
生活習慣病のリスクを高める飲酒をしている人の割合（男性2合以上、女性1合以上）（再掲）	C
・適度な睡眠を確保する（再掲）	
睡眠で休養を十分にとれている人の割合（再掲）	B

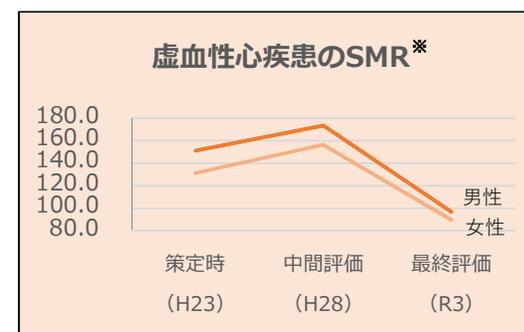
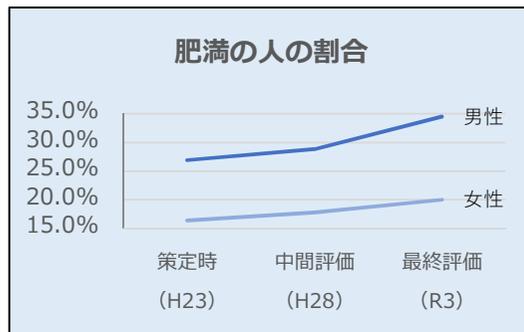
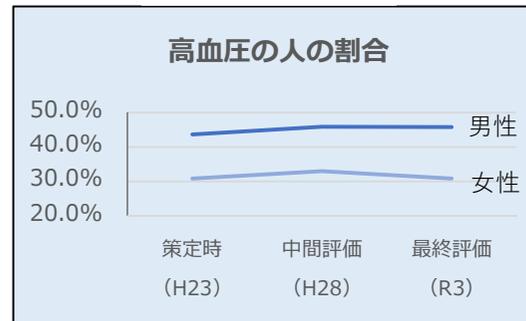
最終評価（重点項目）における目標達成状況の概要④ 壮年期（40～64歳）

項目	評価
○気持ちを明るく持って暮らす	
・ストレスに対処できる	
①ストレスを感じている人の割合	E
②ストレスがあったときにうまく対処している人の割合	E
③仕事や生活に充実感が持てない人の割合	E
④自殺者数	C
・適度な飲酒量を守る（再掲）	
生活習慣病のリスクを高める飲酒をしている人の割合（男性2合以上、女性1合以上）（再掲）	C
・適度な睡眠を確保する（再掲）	
睡眠で休養を十分にとれている人の割合（再掲）	B
・こころの悩みを相談する	
こころの悩みがあるときに相談する人の割合	E
・家族とコミュニケーションをとる	
家族と会話や意思の疎通がとれている人の割合	E
・友人・仲間を持つ	
悩み事や心配事を話せる友人・仲間がいる人の割合	E

※最終評価の数値が策定時より改善された項目は赤色、改善されていない項目は青色で表示。



生活習慣病



※SMRとは、年齢構成の差異を調整した死亡数の比であり、100以上の場合は全国平均より当市の死亡率が高く、100以下の場合には低いと判断される。

壮年期は、家庭、仕事、地域の中での責任が重く、心理的ストレスも大きいですが、心身共に充実しています。しかし、生活習慣病の罹患率が高まる時期です。

○受動喫煙対策の強化に伴い、施設において敷地内等禁煙措置が講じられたことや、たばこの価格上昇等の社会情勢により、喫煙者が減少したと考えられる。

○運動習慣がある人の割合が増加した。

○肥満の増加が顕著であり、特に男性の内臓脂肪型肥満が多くなっている。食生活や身体活動、生活リズムの変化等がコロナ禍でより大きくなっていることが要因となっているのではないか。

○高血圧や脂質代謝についても悪化がみられており、内臓脂肪型肥満の増加が要因となっていることが考えられる。

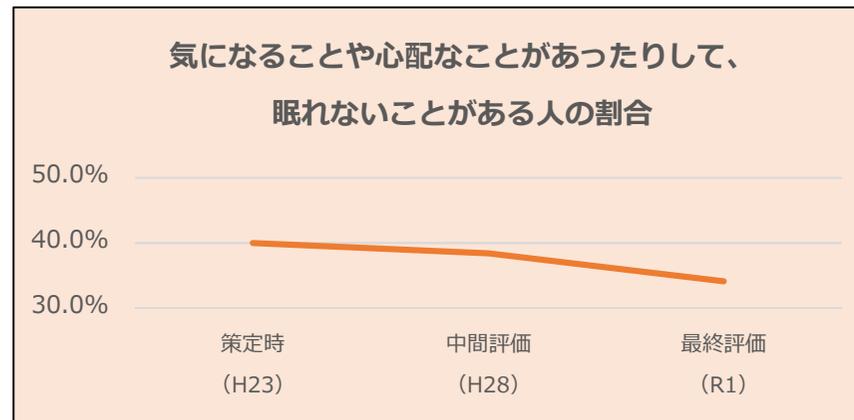
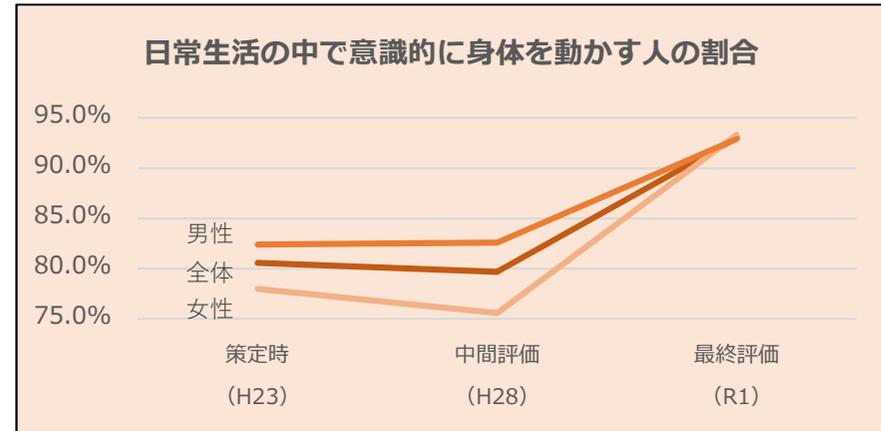
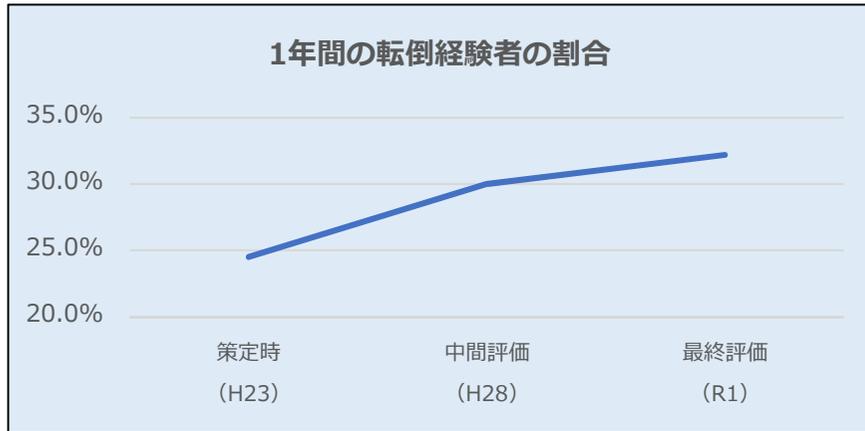
○脳血管疾患による死亡の増加は、高血圧、脂質代謝等の悪化に伴うものと考えられる。

○虚血性心疾患による死亡は減少しているが、脳血管疾患と心疾患の両者を合わせた循環器疾患としては死亡原因を占める割合は高い。

最終評価（重点項目）における目標達成状況の概要⑤ 高齢期（65歳以上）

項目	評価
○自分のことが自分でできる	
・歩く機能を維持する	
① 15分間続けて歩くことができる人の割合	A
② 1年間の転倒経験者の割合	D
③ 膝痛・腰痛のある人の割合（千人あたり）	E
④ 運動機能低下の該当者割合	E
・生活の中で身体を動かす	
① 日常生活の中で意識的に身体を動かす人の割合	B
② 1日の平均歩数	B
○生きがいを持って暮らす	
・くよくよせず明るく前向きな気持ちを持つ	
① 気になることや心配なことがあったりして、眠れないことがある人の割合	B
② ストレス解消や気晴らしの方法がある人の割合	E
③ 自殺者数	C
・こころの悩みを相談する	
人と話したり、話を聞いてもらう人の割合	E
・家族とコミュニケーションをとる	
家族と会話している人の割合	B

※最終評価の数値が策定時より改善された項目は赤色、改善されていない項目は青色で表示。



高齢期では、誰もが加齢による身体機能の低下を感じる反面、それまでの人生経験により、人との協調性やいたわり、優しさといったところの機能は充実する人生の完成期です。しかし、健康問題は大きくなり、病気とうまく付き合いながら日常生活の機能を維持する取組が必要な時期です。

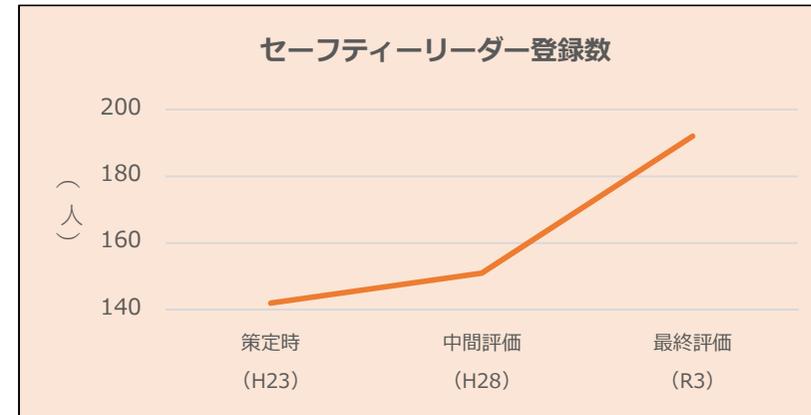
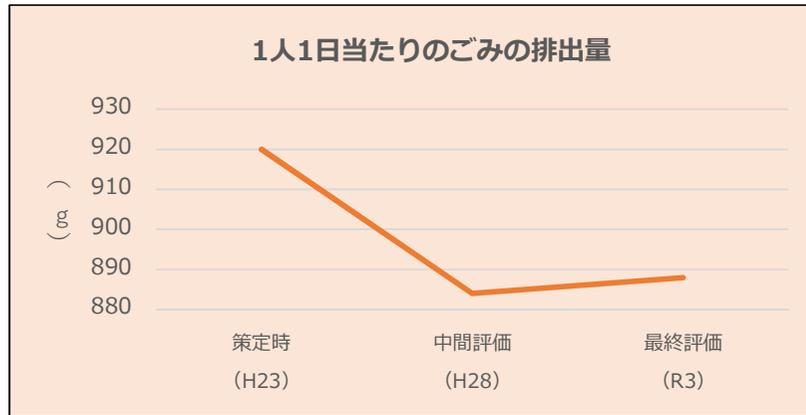
○日常生活の中で意識的に身体を動かす人の割合が増えている一方で、1年間の転倒経験者の割合が増加傾向にある。自身では、身体を動かしていると思っても、必要な量の運動が出来ていないと推測される。引き続き、フレイル予防への取り組みを強化していく必要がある。

○気になることや心配なことがあったりして眠れないことがある人の割合は、策定時と比較して改善されているが、引き続き、地域で声をかけあえる地域づくりや地域でのニーズに合わせた居場所作りをサポートし、さらなる改善に向けた取り組みが必要である。

最終評価（重点項目）における目標達成状況の概要⑥ 環境（全世代共通）

項目	評価
○豊かな自然があり、ふれ合える	
・地域循環型を取り入れたまちづくり	
①リサイクル率	C
②資源物を集団回収している団体の数及び収集される資源物の量	D
③1人1日あたりのごみの排出量	B
④「ばくばくさん」加盟店の数	B
○健康で安心（安全）に暮らせるまち	
・安全に気軽に出かけられる	
①通学路歩道消雪パイプ設置校	B
②セーフティーリーダー登録数	A
③ノンステップバスの導入数（誰もが利用しやすい公共交通の整備）	B
④歩道・自転車道の段差等に困る人の割合	E
⑤歩道・自動車道の街灯等に満足している人の割合	E
・健康を支える環境の整備	
①ヘルシーサポーター企業数	E
①天気の良い日に外遊び又は散歩している子どもの割合	B
③健康づくり井戸端会議の開催地区数	B

※最終評価の数値が策定時より改善された項目は赤色、改善されていない項目は青色で表示。



健康なまちは、安心して暮らせる生活環境があってこそ築くことができます。緑豊かな恵まれた自然環境やきれいな川、出かけやすいまちなど、日常生活における環境と安全性の確保が不可欠です。

○ごみの有料化や、古着、古布のステーション収集を始めたことにより、ごみの減量が進んだ。

○セーフティーリーダー登録数の増加は、各地域で交通安全活動への意識が徐々に高まっている傾向にあるためと推測される。

○健康づくり支援店登録数は、H28年から減少（※）ではあるものの、H23年の計画策定時と比較すると、店舗数は増加している。

※健康増進法改正に伴い原則屋内禁煙となったことで、「禁煙・分煙部門」が廃止されたことによる減少。

最終評価のまとめ

乳幼児期	長岡版ネウボラの推進により、安心して子育てできる環境が整っているが、核家族の増加や保護者の就労状況が、就寝時間が遅くなることや食事のバランスの悪化に影響していると思われる、引き続き <u>規則正しい生活習慣の啓発が必要</u> である。
学童思春期	食育の取組によりバランスのよい食事への意識が高まっているが、朝食の欠食率や朝食を家族と食べない児童・生徒の割合が高く、保護者の就労状況の影響や生活リズムの乱れがみられる。 <u>健康づくりの基礎となる生活リズムを整える習慣を持てるような取組が必要</u> である。
青年期	運動習慣がある人が増加し健康意識の向上がみられる一方、食事バランスの悪化や欠食等食生活の乱れが課題となっている。 <u>高血圧等生活習慣病において予防対策に取り組んでいるが改善が認められず、効果的な取組が必要</u> である。
壮年期	歯科保健への関心は向上している。しかし生活習慣の基本となる食事・運動習慣の改善は認められず、糖代謝異常、高血圧、肥満等生活習慣病は増加し、脳血管疾患や心疾患といった循環器疾患の発症につながっている一因となっている。 <u>生活習慣病予防の更なる取組の強化が必要</u> である。
高齢期	日常生活で意識的に身体を動かす人の割合は増えているが、転倒経験者の割合は増加しており、身体を動かしている人でも、必要な運動ができていないことが推測される。今後も、 <u>運動機能向上を中心に、フレイル予防の取組を推進していくとともに、高齢期の生活習慣病の重症化防止のため保健事業と介護予防の一体的実施をすすめていくことが必要</u> である。

第2次プラン重点目標に対する指標の評価 乳幼児期(0~6歳)「のびのび笑顔であんしん子育て」

ありたい姿	重点目標	行動・生活様式		策定(H23)	中間評価(H28)	最終評価(R3)	最終評価とする調査	目標値(2022)	達成状況	評価(背景、要因など)	担当課
		目標	目標値項目								
すくすく育つ	基本的な生活習慣を身につける	早寝早起きなど生活リズムを確立する	7時までに起きる子どもの割合	3歳児:76.0% 5歳児:93.8%	3歳児:76.2% 5歳児:92.4%	3歳児:82.0%	3歳児健診の問診 5歳児については保育課でも資料なし。	→	A	・7時までに起きる子の割合の改善は、健診・相談の場面や育児講座等を通して規則正しい生活習慣の啓発を継続していることが背景にあると思われる。 ・一方、21時までに寝る子の割合の低下の背景には、子どもの就寝時間が保護者の生活習慣に影響を受けていることが考えられる。 ・テレビやDVD、ゲームについても、健診・相談の場面や育児講座等を通して乳幼児のメディア利用の啓発を継続している。	子ども・子育て課
			21時までに寝る子どもの割合	3歳児:61.2% 5歳児:54.3%	3歳児:45.3% 5歳児:53.6%	3歳児:46.6%		↑	D		
			テレビ・DVDを2時間以上見る子どもの割合	3歳児:65.8% 5歳児:42.8%	3歳児:55.7% 5歳児:37.9%	3歳児:56.1%		↓	C		
			ゲームを1時間以上する子どもの割合	3歳児:2.7% 5歳児:51.6%	3歳児:3.2% 5歳児:54.8%	3歳児:3.3%		↑	E		
			毎日便通がある子どもの割合	なし	3歳児:71.1% 5歳児:64.3%	-		指標なし			
		食事のマナーに気をつけている家庭の割合	5歳児:90.7%	5歳児:92.3%	-	指標なし	↑	E	食育に関するアンケート調査(5歳児)では、「食事の時に、“いただきます”や“ごちそうさま”などのあいさつをしますか」の設問に対し、「いつもしている」と回答した割合は、悪化傾向にある(H24年度:70.4%、H29年度:67.8%、R4年度:66.8%)。同様に大人の割合も悪化しており、大人の挨拶行動への意識の向上が必要だと考えられる。	健康課	
		食事のマナーを身につける	食事の時にテレビをつけていることが多い家庭の割合	<1.6歳児> 多い:43.2% 時々:36.8% つけない:19.7% <3歳児> 多い:42.2% 時々:36.4% つけない:21.4%	<1.6歳児> 多い:39.4% 時々:36.8% つけない:23.3% <3歳児> 多い:38.6% 時々:36.4% つけない:22.9%	<1.6歳児> 多い:40.4% 時々:34.5% つけない:25.1% <3歳児> 多い:38.0% 時々:32.1% つけない:27.3%	1.6歳、3歳児健診の問診	↓	A	健診・相談の場面や育児講座等を通して規則正しい生活習慣やメディア利用の啓発を継続していることが改善の背景にあると思われる。	子ども・子育て課
		バランスの良い食事をする	好き嫌いが多い子どもの割合	3歳児:10.8% 5歳児:20.7%	3歳児:19.8% 5歳児:15.1%	-	指標なし	↓	E	設問の変更により単純比較はできないが、悪化傾向にある。核家族の増加や保護者の就業率の変化が影響していると考えられる。	健康課
		三食主食、主菜、副菜がそろった食事をする子どもの割合	なし	3歳児:80.9% 5歳児:86.8%	5歳児:28.5%(R4)	食育に関するアンケート調査「主食主菜副菜がそろった朝食を毎日食べる」(幼児)	→	D			
		親子で外遊びを楽しむ(身体を使った遊びをする)	天気の良い日に外遊び又は散歩している子どもの割合	1.6歳児:94.6%	1.6歳児:95.3%	1.6歳児:95.9%	1.6歳健診の問診	↑	B	健診・相談の場面や育児講座等を通して規則正しい生活習慣の啓発を継続していることが改善の背景にあると思われる。	子ども・子育て課
のびのび育つ	親子のスキンシップが十分ある	スキンシップが十分にある子の割合		6か月:98.7% 3歳児:93.8% 5歳児:89.8%	6か月:98.1% 3歳児:93.3% 6歳児:89.8%	-	指標なし	↑	E	-	-
		親子でゆったり遊ぶ	親子でゆっくり過ごす時間がある家庭の割合	3歳児:91.5%	3歳児:69.0%	3歳児:82.2%	3歳児健診の問診	↑	C	育児が楽しいと感じる保護者が増加している一方で、仕事との両立等でゆったりした気持ちになれない母親もあり、子育て家庭の環境は多様化しているが、時間が短くても読み聞かせなど双方向の関わりとなるような質の高い過ごし方の大事さを伝えている。	子ども・子育て課
		家族みんなで食事をする	親子で1日1回以上食事をする家庭の割合	なし	3歳児:98.5% 5歳児:98.8%	-	指標なし	→	E	設問の変更により単純比較はできないが、食育に関するアンケート調査(5歳児)では、家族で食事をする割合は改善傾向にある(H29年度94.3%、R4年度97.2%)。家族で過ごす時間を見直す意識や感染症の影響により在宅時間が増えたことが関係していると考えられる。	健康課
ところにゆとりを持って子育てができる	家庭や地域で安心して楽しく子育てできる	長岡が子育てしやすいまちだと思ふ人の割合		なし	6か月児:82.0% 3歳児:85.7% 5歳児:79.0%	3歳児:96.9%	3歳児健診問診「この地域で今後も子育てをしていきたいですか」	↑	A	保育士や子育てでコンシェルジュがいる子育ての駅や、妊娠から出産・育児まで切れ目なく支援を受けることができる長岡版ネウボウで、育児に関する相談や支援を受けられることが保護者の安心感に繋がっているとと思われる。	子ども・子育て課
		育児が楽しいと感じる親の割合		1.6歳児:79.7% 3歳児:70.7%	1.6歳児:81.3% 3歳児:72.9%	1.6歳児:85.1% 3歳児:76.8%	1.6歳、3歳児健診の問診	↑	B	夫婦で子育てをする風潮の高まりが育児が楽しいと感じる理由の一つと思われる。	
		地域のみんが気軽に声をかけ合う	町内会や子ども会等の地域活動に参加している人の割合	6か月:41.4% 3歳児:55.3% 5歳児:75.8%	6か月:27.2% 3歳児:49.3% 5歳児:76.5%	-	指標なし	↑	E	・地域版子育ての駅やまみりラ・まなナビ等の整備により、地域において、家族以外の人と交流したり、支援を受けたりしながら子育てを行う親が増えている。 ・育児休業を取得しやすい雇用環境の整備や男性の育休に関する啓発等が、取得率の増加に繋がったと思われる。 ・核家族化等の影響により、子どもを預かってくれる人がいる割合が減少している。預け先の祖父母等への負担を心配する人の割合が増えていることも要因の一つと思われる。 ・子どもの預け先として、保育園・子育ての駅の一時的保育や病児・病後児保育、ファミリー・サポート・センター等の利用の啓発を継続している。	子ども・子育て課
			親子サークル、子育て支援センター、子育ての駅、体操教室に参加している親子の割合	6か月児:47.1% 3歳児:59.9%	6か月児:52.3% 3歳児:62.2%	6か月児:82.8% 3歳児:86.7% (H30)	育ちあいプランニーズ調査「子育て支援のサービスを利用したことがありますか」(就学前)	↑	A		
		子育て中でも仕事や自分の時間を持つ	育児休業を取る人の割合	52.4%	56.1%	60%(H30)	育ちあいプランニーズ調査(就学前)問16	↑	B		
			子育て中でも仕事をしたり、自分の時間が持てる親の割合	なし	6か月児:41.4% 3歳児:65.0% 5歳児:68.8%	-	指標なし	↑	E		
子どもを預けたい時に預けられる親の割合	6か月児:86.7% 3歳児:96.3%	6か月児:86.2% 3歳児:96.8%	6か月児:85.4% 3歳児:85.1% (H30)	育ちあいプランニーズ調査「子供を預かってもらえる人がいますか」(就学前・児童)	↑	C					

第2次プラン重点目標に対する指標の評価 学童思春期(7~18歳)「からだところのバランスよい自立」

ありたい姿	重点目標	行動・生活様式		策定 (H23)	中間評価 (H28)	最終評価 (R3)	最終評価とする調査等	目標値 (2022)	達成状況	評価(背景・要因など)	担当課		
		目標	目標値項目										
元気な身体をつくる・病気になる	望ましい食習慣を身につける	間食は質と量と時間を考えて食べる	夕食に影響のあるおやつを食べ方をしている児童・生徒の割合	現状値なし	小:4.4% 中:2.2% 高:1.4%	-	指標なし	→	E	<p>・朝食の摂取について、小中学生は悪化傾向がみられた。生活リズムの乱れが朝食の摂取に影響していると考えられる。高校生に関しては、やや改善傾向にある。学校での食育の取組の中で、朝食を食べることの大切さを啓発している。</p> <p>・野菜を1日に2回以上食べる生徒の割合は、高校生は改善がみられた。小中学生からの食育により意識が向上したことが考えられる。</p> <p>・夕食を家族と一緒に食べる児童・生徒の割合について改善傾向にある。家族で過ごす時間を見直す意識や感染症の影響により在宅時間が増えたことが関係していると考えられる。</p>	健康課		
			夕食後、夜食を毎日食べる児童・生徒の割合	現状値なし	小:9.1% 中:13.6% 高:13.5%	-	指標なし	→	E				
		三度の食事をきちんとする	朝食の欠食率	小:1.5% 中:1.0% 高:5.8%	小:1.0% 中:0.9% 高:3.4%	小中:2.4%(R4) 高:4.9%(R4)	食育に関するアンケート調査「朝ご飯を食べているか」(小中高)に対し、「ほとんど食べない」と回答	0%	C				
			主食・主菜・副菜がそろった食事が1日に2食以上の児童・生徒の割合	小:80.9% 中:81.1% 高:68.8%	小:80.5% 中:85.8% 高:76.8%	小:- 中:- 高:77.0%(R4)	食育に関するアンケート調査「主食主菜副菜がそろった食事が1日2回以上」(高)	↑ ↑ 80%	B				
			野菜を1日に2回以上食べる児童・生徒の割合	小:86.8% 中:86.4% 高:75.5%	小:79.7% 中:85.8% 高:70.2%	小中:84.6%(R4) 高:81.6%(R4)	食育に関するアンケート調査「1日2回以上野菜を摂取している人の割合」(小中高)	↑	B				
			朝食や夕食を家族と一緒に食べる児童・生徒の割合	朝食 小:58.2% 中:57.9% 高:38.1%	朝食 小:59.0% 中:44.0% 高:33.0%	朝食 小中:45.9%(R4) 高:36.2%(R4)	食育に関するアンケート調査「朝ご飯を家族と一緒に食べることはどれくらいありますか」(小中高)に対し、「ほとんど毎日食べる」と回答	↑	C				
		夕食 現状値なし	夕食 小:79.8% 中:72.7% 高:60.2%	夕食 小中:80.2%(R4) 高:71.8%(R4)	食育に関するアンケート調査「夕ご飯を家族と一緒に食べることはどれくらいありますか」(小中高)に対し、「ほとんど毎日食べる」と回答	↑							
	運動を楽しみ、体力が向上する	身体を動かすことが好きな児童・生徒の割合		小:90.0% 中:83.4% 高:84.8%	小:88.0% 中:82.7% 高:78.0%	小:88.9% 中:80.4%	身体を動かすことが好きな児童生徒の割合(体力テスト時のアンケート調査 小5男女、中2男女対象)	→	B			小学生、中学生とも、数値は少し低下している。新型コロナウイルスによる活動機会減少の影響を考慮すると、大きな変化はないととらえる。社会環境の変化の中で、特に学校以外での「外遊び」等、身体を動かす機会は減少していると推測される。	学校教育課
		児童・生徒の体力(小5男女の合計点、中2男女の合計点)		小学5年 114.04点 中学2年 97.80点	小学5年 115.34点 中学2年 97.45点	小学5年 112.61点 中学2年 96.19点	児童・生徒の体力(小5男女の合計点、中2男女の合計点)	↑	B				
		スポーツや遊びで身体を動かす	学校の体育の他に運動や体を動かす遊びなどを週3回以上している児童・生徒の割合	小:70.7% 中:75.9% 高:45.3%	小:71.9% 中:73.6% 高:45.2%	-	指標なし	↑	E			スポーツ団体数の減少によるスポーツ離れに加え、新型コロナウイルス感染拡大による活動制限に伴い、スポーツに触れ合う機会が少なくなったことで、減少に転じたと考えられる。	スポーツ振興課
			スポーツ少年団参加人数(小学生のみ)	3317人	2527人	1906人		↑	C				
		前向きに充実した生活を送る	自分なりの目標を持ち、目標に向かって意欲を持って取り組める	自分の気持ちを表現する	悩みや不安を聞いてくれる人がいると思う児童・生徒の割合	小:95.2% 中:91.5% 高:84.3%	小:79.4% 中:88.6% 高:86.1%	小:調査なし 中:95.6% 高:94.2%	子育て育ちあいプランニーズ調査「悩みや不安を誰の相談しますか」(中高)			↑	A
自分の意見を素直に言うことができる児童・生徒の割合				なし	小:47.0% 中:45.4% 高:40.2%	-	指標なし	↑	E				
困難を克服しようと努力する	困難に直面したときに克服しようと努力する児童・生徒の割合			小:92.7% 中:93.7% 高:90.4%	小:89.1% 中:89.8% 高:88.7%	-	指標なし	→	E				
自分が打ち込めるものを持つ	自分が打ち込めるものがある児童・生徒の割合			なし	小:81.2% 中:81.1% 高:79.8%	-	指標なし	→	E				

第2次プラン重点目標に対する指標の評価
 青年期(19~39歳)「元気な心身でうるおいある充実した生活」

ありたい姿	重点目標	行動・生活様式		策定(H23)	中間評価(H28)	最終評価(R3)	最終評価とする調査等	目標値(2022)	達成状況	評価(背景・要因など)	担当課		
		目標	目標値項目										
病気になる ずに元気に 過ごす	生活習慣病 を予防できる	高血圧の人の割合		男性:22.6% 女性:4.1%	男性:19.8% 女性:5.4%	男性:21.3% 女性:6.7%		↓	C	・肥満の増加がみられており、食環境の変化や身体活動の低下がコロナ禍で大きく進んだことが要因として考えられる。 ・また対象者には経済困窮等の問題を抱えている者も多く、安価で満腹になる食事(単品食べ、菓子類の増加等)が背景にあるのではないかと。 ・肥満の増加と糖代謝異常、脂質代謝異常に関連がみられる。一方で血圧には変化がみられないが、内臓脂肪型肥満は動脈硬化を促進し、いずれ高血圧になるリスクが高い状態といえる。 ・生活習慣病対策として医療機関から紹介された人を生活習慣改善プログラム等につなげ、予防対策に取り組んでいるがさらなる強化が必要 ・女性のやせはやや改善がみられている。	健康課		
		脂質代謝異常の人の割合		男性:63.7% 女性:37.8%	男性:60.4% 女性:38.2%	男性:64.3% 女性:42.7%		↓	D				
		糖代謝異常の人の割合		男性:21.6% 女性:21.9%	男性:28.0% 女性:29.0%	男性:28.5% 女性:26.7%		↓	D				
		適正体重を維持している人の割合(男は20~30代肥満、女は20代やせ)		男性:26.0% 女性:30.2%	男性:30.1% 女性:28.5%	男性:29.9% 女性:22.4%		男性肥満:24% 女性やせ:20%	C				
		定期的に歯科を受診する		定期的に歯科を受診している人の割合	22.1%	25.6%	36.4%	歯周病健診(30歳)問診「過去1年以歯科健診を受けたか」	25%以上	A		青年期は歯科受診のために時間をさきにくい年代だが、定期的に歯科健診を受けている人の割合は増加しており、歯科保健への関心が高まっていることがうかがえる。子どもの頃からの意識づけが効果をあげていると予測する。	
		自分にあった質と量の食事を する		主食・主菜・副菜がそろった食事が1日2回以上の人の割合		67.0%	62.5%	46.1%(R4)	食育に関するアンケート調査「主食・主菜・副菜が揃った食事が1日2回以上の人」の割合(20~30歳代)	80%		D	・朝食の欠食率について、単身世帯や20~40歳代(特に20歳代)の朝食の欠食率が高い傾向にある。生活時間の夜型傾向により夕食の喫食時間の遅いこと、朝の起床時間の遅れなどが理由として考えられる。
				朝食の欠食率		12.5%	13.5%	14.1%(R4)	食育に関するアンケート調査「ふだん朝食をほとんど食べない人」の割合(20~30歳代)	↓		D	
				食事を作る習慣がある人の割合		全体:39.2% 男性:21.4% 女性:52.8%	全体:36.9% 男性:15.7% 女性:53.4%	-	指標なし	↑		E	
		喫煙しない		喫煙している人の割合		全体:33.6% 男性:45.8% 女性:13.9%	全体:18.2% 男性:30.9% 女性:8.2%	全体:9.7% 男性:15.8% 女性:7.5%	特定健診の問診「たばこを習慣的に吸っている」	全体:20.2% 男性:27.5% 女性:8.3%		A	・策定時、中間評価で実施した市民対象のアンケート調査と、最終評価で使用した特定健診の問診とは数値に隔たりがあったが、確実に減少した。(特定健診問診H23:全体16.5%、男性34.1%、女性11.9%、H28:全体14.0%、男性30.3%、女性9.3%) ・平成30年に健康増進法の一部を改正する法律が成立し受動喫煙対策の強化が図られた。令和元年から順次各施設において敷地内等禁煙措置が講じられたことや、たばこの価格上昇等の社会情勢の変化により、喫煙者が減少したものと考えられる。
				受動喫煙(家庭・職場)の機会を有する人の割合		67.9%	59.3%	-	指標なし	↓		E	
		年1回健康診断を受ける		1年に1回健康診断を受ける人の割合		88.2%	91.0%	-	指標なし	↑		E	・歯周病健診は令和2年度から対象年齢に30歳を追加した。若い世代は個別通知に関心を示さない傾向がある一方で、すでにかかりつけ医を持ち、定期受診している方が一定数いることが考えられる。 ・各がん検診について『中間報告の「指標の変化の背景・原因」欄』によると、「対象者算出方法に変更がありH27年度以降拡大、H28年度はH23年度の約2倍の対象者数となった。」 ・(中間評価から子宮頸がん検診の受診率は変わらないが、)20代後半~30代の受診率が低いため、乳幼児健診時にチラシを配布し出産後の検診の啓発を実施している。一方で無料クーポン対象である20歳の受診者は増加しており、同封する案内に写真を含めた検査方法とQ&Aを追加する等の工夫や、個別検診実施機関が増加したことが理由として考えられる。
				各種検診受診率		特定:9.7% 子宮:13.0%	特定:8.9% 子宮:2.6%	特定:8.8% 子宮がん検診:2.5% 歯周病健診:10.8%	歯周病検診(30歳)、子宮がん検診(20~39歳)	↑		C	
		生活の中で身体を動かす		運動習慣がある人の割合		男性:20.5% 女性:12.6%	男性:27.8% 女性:11.9%	男性:30.5% 女性:15.4%	特定健診の問診「1日30分以上の軽く汗をかく運動を週2日以上、1年以上実施している」人の割合	男性:30% 女性:15%		B	・若い世代で健康意識が高まっているものと考えられる。 →特定健診の問診で「運動や食生活等の生活習慣を改善してみようと思いませんか。」の問に対し、「改善するつもりである」又は「既に改善に取り組んでいる」と回答した人が全体で75.4%(内 男性:68.7% 女性:77.8%)であった。
				1日の平均歩数		(男性) 20代:6474歩 30代:6891歩 (女性) 20代:5683歩 30代:6146歩	(男性) 20代:8111歩 30代:5759歩 (女性) 20代:7424歩 30代:6360歩	男性:5578歩 女性:5159歩	タニタ会員の歩数(送信データの集計)	男性:9,000歩 女性:8,500歩		D	
適度な飲酒量を守る		生活習慣病のリスクを高める量の飲酒をしている人の割合		男性:9.4% 女性:13.1%	なし	男性:8.9% 女性:13.5%	特定健診の問診 飲酒日1日あたりの飲酒量が男性2合以上、女性1合以上の者の割合	↓	C	・数値に大きな変化がないことから、新型コロナウイルスによる生活様式の変化の影響はなかったと考えられる。			
規則的な生活を送る		睡眠で休養をとれている人の割合		65.6%	71.2%	78.8%	特定健診の問診「睡眠で十分な休養がとれている」	85%	C	スマートフォン等の普及やデジタル化により社会情勢が変化し、睡眠時間が短くなっていることが想定されるが、休養をとれていると感じている人は多い。			
仲間と仕事や余暇を楽しむ生活に充実感がある	ストレスに対処できる	ストレスを感じている人の割合		27.5%	22.7%	-	指標なし	↓	E	長岡市における自殺者の総数は、策定時や中間評価時に比較すると、減少しているものの、青年期の自殺者数は高止まりが続いている。全国的にも同様の傾向がみられる。 青年期は、自発的な相談や支援にはつながりにくい傾向がある一方で、インターネットやSNS上で自殺をほめかしたり、相談機関を検索したりする傾向もあると言われている。支援を必要とする人が、簡単に適切な支援策やストレス対応等のメンタルヘルスに係る情報を得ることができるようにするため、市のホームページ等を活用した支援策情報の集約、提供を強化していく必要があると思われる。	健康課		
		ストレスにあったときにうまく対処している人の割合		67.9%	69.2%	-	指標なし	↑	E				
		自殺者数(20~39歳)		男性:12 女性:5	男性:11 女性:3	男性:8 女性:6	自殺対策計画	↓	C				
		家族・仲間とコミュニケーションをとる		家族・仲間との会話がある人の割合		なし	84.6%	-	指標なし			↑	E
				自分の意見を主張でき、相手の意見も受容できる人の割合		61.4%	70.3%	-	指標なし			↑	E
				サークル活動に参加している人の割合		なし	19.30%	-	指標なし			↑	E
		こころの悩みを相談する		こころの悩みがあるときに相談する人の割合		71.7%	73.4%	-	指標なし			↑	E

第2次プラン重点目標に対する指標の評価
 壮年期(40～64歳)「自分らしく前向きに仲間と共に歩む」

ありたい姿	重点目標	行動・生活様式		策定(H23)	中間評価(H28)	最終評価(R3)	最終評価とする調査	目標値(2022)	達成状況	評価(背景、要因など)	担当課			
		目標	目標値項目											
病気になる ず にや りたい こと が できる	糖尿病にな らない 又は 重症化し ない	糖代謝異常の人の割合		男性:61.1% 女性:63.0%	男性:63.4% 女性:64.2%	男性:57.6% 女性:56.2%		↓	B	高齢になるにつれてインスリン分泌能が低下することから糖代謝異常がおこりやすくなる。評価対象としている国保健診受診者の内訳は策定時と比較して60歳から64歳の割合が減少しており、このため全体として改善しているように見えるが年齢別にみると悪化している。肥満の増加との関連もみられ、コロナ禍での生活の変化が影響していることも考えられる。	健康課			
		糖尿病性腎症患者数(人工透析患者数)		165人	180人	171人	-	C						
		毎食後歯磨きをする		毎食後歯磨きをする人の割合	51.7%	53.0%	41.7%	歯周病健診(40～64歳)問診「歯磨き回数3回以上」	55%	C		・動いている年齢層のため、昼の歯磨きが難しい環境にある等が想定される。 ・歯間ブラシ等歯ブラシ以外のケア商品もメディア等での周知が影響し活用している人が増加している。		
				歯間清掃用具を使用している人の割合	41.6%	50.1%	66.2%	歯周病健診(40～64歳)問診「歯間ブラシまたはフロスを使っているか」	45%	A				
		定期的に歯科を受診する		定期的に歯科を受診している人の割合	28.5%	36.9%	43.5%	歯周病健診(40～64歳)問診「過去1年以内歯科健診を受けたか」	30%以上	A		歯のトラブルが増える時期であることが予想され、有症状による受診をきっかけに定期健診につながる人が増加しているのではないかと考えられる。		
				歯周疾患検診受診率(40.50.60歳)	10.3%	13.4%	14.3%		10.3%以上	B				
		喫煙しない		喫煙している人の割合	全体:26.0% 男性:43.0% 女性:9.8%	全体:19.3% 男性:33.9% 女性:8.8%	全体:17.0% 男性:28.8% 女性:8.7%	特定健診の問診「たばこを習慣的に吸っている人」	全体:15.6% 男性:25.8% 女性:5.9%	C		・平成30年に健康増進法の一部を改正する法律が成立し受動喫煙対策の強化が図られた。令和元年から順次各施設において敷地内等禁煙措置が講じられたこと又はたばこの価格上昇等の社会情勢の変化により、喫煙者が減少したものと考えられる。		
				受動喫煙(家庭・職場)の機会を有する人の割合	66.5% 家庭:28.7% 職場:61.1%	52.9% 家庭:31.6% 職場:48.0%	-	指標なし	0%	E				
		生活の中で身体を動かす		運動習慣がある人の割合	男性:21.5% 女性:22.7%	男性:25.8% 女性:21.6%	男性:29.2% 女性:27.3%	特定健診の問診「1日30分以上の軽く汗をかく運動を週2日以上、1年以上実施している」人の割合	30%	B		・(評価値について単純比較できないが、)健康意識が高まっているものと考えられる。(特定健診の問診で「運動や食生活等の生活習慣を改善してみようと思いませんか。』の問に対し、「改善するつもりである」又は「既に改善に取り組んでいる」と回答した壮年期の人が、H23:67.7%(男性63.7%、女性70.1%)に対し、R3:85.4%(男性:83.9%、女性:86.4%)と大幅に上昇している。)		
				1日の平均歩数	男性:6462歩 女性:6898歩	男性:8609歩 女性:7183歩	男性:6475歩 女性:5592歩	タニタ会員の歩数(送信データの集計)	-	C			・H23と比べ男性は変化なし、女性は減少している。H28と比べるとどちらも大幅に減少している。新型コロナウイルス感染症拡大に伴う外出自粛期間が長く続いたことが、平均歩数の減少に影響していると考えられる。	
		自分に合った質と量の食事をする		野菜を1日に2回以上食べる人の割合	86.7%	77.4%	75.2%(R4)	食育に関するアンケート調査「1日2回以上野菜を摂取している(40～60歳代)」	90%	D		・1日に野菜を2回以上食べる人の割合について、単純比較はできないが悪化傾向にある。野菜の調理は手間がかかる、面倒、調理の時間がない等の理由が考えられる。 ・主食・主菜・副菜が揃った食事が1日2回以上の人割合について、最終評価で用いた食育に関するアンケート調査では、H29:60.8%であり、若干改善傾向にあるが、野菜の調理同様、手間がかかる、面倒、調理の時間がない等の理由で、目標値には至っていない。		
				1日の塩分摂取量	なし	10.2g H27県民健康・栄養実態調査	8.9g R1県民健康・栄養実態調査	県民健康・栄養実態調査	男性:8g 女性:7g	C				
				主食・主菜・副菜が揃った食事が1日2回以上の人割合	なし	70.7%	64.8%(R4)	食育に関するアンケート調査「主食・主菜・副菜が揃った食事が1日2回以上の人」の割合(40～60歳代)	80%	C				
		年に1回健康診断を受ける		1年に1回健康診断を受ける人の割合	91.7%	93.1%	-	指標なし		↑		E	・策定時、中間評価で実施した市民対象のアンケート調査を行わないため、評価の指標はなし。 ・40～64歳長岡市国保加入者の受診率は、H23年度 23.9%、H28年度 22.4%、R3年度 22.5%だった。 ・新型コロナウイルスの影響により、R1年度、R2年度は特定健診の受診率は減少し、受診控えが見受けられた(R1年度 21.6% R2年度 16.3%)が、R3年度から、国保加入者に対する受診勧奨を強化したため、R3年度は受診率が増加した。 ・また、徐々に働き盛り世代の健康意識も高まっているものと考えられる。	
				各種検診受診率(40～64歳)		胃がん検診	23.8%	2.6%	2.4%	胃がん検診		↑	D	・新型コロナウイルスの影響もあり低迷。H28年、国は胃がん検診として胃部X線検査に加え胃内視鏡検査も選択可能とした。人間ドッグや職場検診等、他の機会に受診する人が一定数いると考えられる。
						大腸がん検診	17.5%	4.8%	4.7%	大腸がん検診		↑		・H29年度で節目年齢への無料クーポン券配布が終了した。さらに新型コロナウイルスの影響もあり、受診率は低下している。
						子宮がん検診	21.0%	5.9%	6.0%	子宮がん検診		↑		・個別検診の受診者数は増加しており、要因として個別実施機関が増加したことが考えられる。
						乳がん検診	20.0%	7.9%	7.9%	乳がん検診		↑		・個別検診の受診者数は増加しており、要因として個別実施機関が増加したことが考えられる。発症がピークである40～50代 [※] の受診率が低い。 ※独立行政法人国立がん研究センターがん対策情報センター(2008 人口10万人あたりの罹患率)
						肺がん検診	8.4%	4.9%	4.7%	肺がん検診		↑		・新型コロナウイルスの影響もあり低迷。集団健診しなく、全予約制となったことも関係していると考えられる。40～50代の受診率が低く、60歳以上に増加傾向がみられている。
						前立腺がん検診	5.0%	1.6%	1.2%	前立腺がん検診		↑		・新型コロナウイルスの影響もあり低迷。
胃リスク検診(40.45.50.55.60歳)	未実施					18.3%	10.9%	胃リスク検診(40.45.50.55.60歳)	↑	・H26年度に開始。中間評価より受診率が低下しているが、R3年度は45歳以上の受診者にとって2巡目の受診機会であること、ピロリ菌検査や除菌治療の普及により市検診の対象とならない者が増加していることが要因と考えられる。				
特定保健指導実施率(利用率)	24.8%	23.4%	22.0%	利用率40～64歳	60%	D	・新型コロナウイルスの影響により、指導会の開催を一部中止したり、指導会への参加控えがあったことが利用率減少の一因であると考えられる。 ・特定保健指導の対象者が増加傾向にあるが、(【特保対象者数】R1:288人R2:340人R3:546人)R3は健診受診者が年度後半の時期に集中していたため、利用動向を十分にすることができなかった。							
適度な飲酒量を守る	生活習慣病のリスクを高める飲酒している人の割合	男性:34.5% 女性:37.9%	男性:29.5% 女性:36.8%	男性:18.4% 女性:16.1%	特定健診の問診 飲酒日1日あたりの飲酒量が男性2合以上、女性1合以上の者の割合	↓	C	・策定時、中間評価では市民対象のアンケート調査から、最終評価では特定健診の問診から数値をとったため、数値に隔たりが見られた。中間評価(H28)の特定健診の問診による数値は、男性18.1%、女性14.6%であり、ほぼ横ばいの状況である。						
適度な睡眠を確保する	睡眠で休養を十分にとれている人の割合	71.5%	78.8%	73.6%	特定健診の問診「睡眠で十分な休養がとれている」	85%	B	スマートフォンの普及等デジタル化により社会情勢が変化し、睡眠時間が短くなっていることが想定されるが、休養をとれていると感じている人は多い。						
動脈硬化を 予防できる	高血圧の人の割合		男性:43.7% 女性:30.9%	男性:45.9% 女性:33.0%	男性:45.8% 女性:30.9%		↓	C	・肥満の増加が顕著であり、特に男性の内臓脂肪型肥満が多くなっている。特定健診の間診票からは、日常生活での身体活動、就寝前の夕食、朝食の欠食、飲酒量について悪化がみられる。食生活や身体活動、生活リズムの変化等がコロナ禍でより大きくなっていることが要因となっているのではないかと考えられる。 ・高血圧や脂質代謝についても悪化がみられており、内臓脂肪型肥満の増加が要因となっていることが考えられる。 ・高血圧、脂質代謝等の悪化は脳血管疾患による死亡の増加の一因となっていることが考えられる。 ・虚血性心疾患による死亡は減少しているが、脳血管疾患と心疾患の両者を合わせた循環器疾患としては死亡原因を占める割合は高い。					
	脂質代謝異常の人の割合		男性:63.3% 女性:64.2%	男性:66.5% 女性:62.7%	男性:70.7% 女性:67.5%		↓	D						
	脳血管疾患のSMR		男性:116.3 女性:113.1	男性:124.7 女性:122.0	男性:135.8 女性:133.7		100	D						
	虚血性心疾患のSMR		男性:151.2 女性:131.3	男性:173.4 女性:156.4	男性:96.9 女性:89.6		100	B						
	肥満の人の割合		男性:26.9% 女性:16.4%	男性:28.8% 女性:17.8%	男性:34.5% 女性:20.0%		↓	D						
気持ちを明るく 持って暮らす	ストレスに対 処できる	ストレスを感じている人の割合		76.1%	71.3%	-	-	↓	E	壮年期の自殺者数は、策定時および中間評価時に比較し、減少傾向にある。令和3年は、女性の自殺者数が男性を上回ったものの、例年は、男性が女性の2倍で推移している。策定時より、長岡市の自殺者総数において、40～59歳男性の自殺者数の割合が高い状況が継続している。地域自殺実態プロファイル(いのちを支える自殺対策推進センター作成)より、長岡市は、2017～2021年の自殺者の特性として男性40～59歳有職同居が3番目に多くなっている。中高年の就業している男性は、各種専門機関との接点が少なく、実態を把握しにくい層になっている。職場におけるメンタルヘルス対策として、企業向けのこころの健康づくりに関する啓発やゲートキーパー研修等を産業保健分野だけでなく労働分野の関係機関等と連携しながら実施していく必要がある。				
		ストレスにうまく対処している人の割合		76.7%	79.6%	-	-	↑	E					
		仕事や生活に充実感が持てない人の割合		なし	20.4%	-	-	↓	E					
		自殺者数		男性:27 女性:8	男性:24 女性:8	男性:11 女性:12	自殺対策計画	↓	C					
		こころの悩みを相談する	こころの悩みがある時に相談する人の割合	69.0%	74.2%	-	-	↑	E					
		家族とコミュニケーションをとる	家族と会話や意志の疎通がとれている人の割合	84.5%	83.3%	-	-	↑	E					
		友人・仲間を持つ	悩みや心配事を話せる友人・仲間がいる人の割合	61.9%	58.0%	-	-	↑	E					

第2次プラン重点目標に対する指標の評価
 高齢期(65歳以上)「はつらつ笑顔はみんなの手本」～認知症になっても安心して暮らせる～

ありたい姿	重点目標	行動・生活様式		策定 (H23)	中間評価 (H28)	最終評価 (R3)	最終評価とする調査	目標値 (2022)	達成状況	評価(背景、要因など)	担当課
		目標	目標値項目								
自分のことが自分でできる	歩く機能を維持する	15分間続けて歩くことができる人の割合		77.8%	88.0%	87.6% (R元年度高齢者ニーズ調査)	高齢者ニーズ調査	↑	A	・高齢者は増加しているが、特に65～74歳の前期高齢者は、元気に働いている人が多い。 ・転倒経験者が増加しているが、15分間続けて歩くことができる人の割合は増えている。ここには、歩けるが実際には歩いていない人が2割含まれており、できると思っているも体を動かさないことで筋肉が衰えるなどフレイルの進行につながってしまっていることが想定される。 ・また、前期高齢者と後期高齢者、運動習慣の有無など、個人差もあることから、無関心層への意識啓発や行動につながるきっかけづくりが重要と思われる。 ・平均歩数は、男性・女性ともに、H23、H28と比べて減少している。新型コロナウイルス感染症拡大に伴う外出自粛期間が長く続いたことが影響していると考えられる。	健康課
		1年間の転倒経験者の割合		24.5%	30.0%	32.2% (R元年度高齢者ニーズ調査)	高齢者ニーズ調査	→	D		
		膝痛・腰痛のある人の割合(千人あたり)		膝20.6 腰24.9	なし	-	指標なし	→	E		
		運動機能低下の該当者割合		19.9%	13.4%	-	指標なし	↓	E		
		生活の中で身体を動かす	日常生活の中で意識的に身体を動かす人の割合	全体:80.6% 男性:78.0% 女性:82.4%	全体:79.7% 男性:75.6% 女性:82.6%	全体:93.0% 男性:93.3% 女性:92.9% (R元年度高齢者ニーズ調査)	高齢者ニーズ調査「週に1回は外出しているか」	↑	B		
1日の平均歩数	男性:6616歩 女性:5793歩		男性:6846歩 女性:5613歩	男性:6570歩 女性:5487歩	タニタ会員の歩数(送信データの集計)	→	B				
生きがいをもちて暮らす	くよくよせず 明るい前向きな気持ちを持つ	気になることや心配なことがあったりして、眠れないことがある人の割合		40.0%	38.4%	34.1% (R元年度高齢者ニーズ調査)	高齢者ニーズ調査「この1カ月間、気分が沈んだり、ゆううつな気持ちになったりすることがあるか」	↓	B	・長岡市における自殺者の総数は、策定時や中間評価時に比較すると、減少しているものの、高齢期の自殺者数は高止まりが続いている。地域自殺実態プロファイル(いのち支える自殺対策推進センター作成)より、長岡市は、2017～2021年の自殺者の特性として、男性60歳以上無職同居が一番多く、次いで女性60歳以上無職同居が2番目に多くなっている。 ・コロナ禍により、地域の老人会や介護予防サークル、お茶のみ会等の開催が減るとともに、参加を家族から止められたと話す高齢者も少なくない。地域での関係性や所属感が減弱され、孤立感を深めた高齢者も多かったと思われる。中間評価で悪化傾向にあった「ストレス解消や気晴らしの方法がある人の割合」「人と話したり、話を聞いてもらう人の割合」について、最終の実績値が把握できないが、新型コロナウイルスの影響でさらに悪化していることが懸念される。 ・地域での集まりなどの参加者も固定化の傾向があるため、声をかけあえる地域づくりや地域でのニーズに合わせた健康教室の開催、通いの場(居場所作り)が必要と思われる。	健康課
		ストレス解消や気晴らしの方法がある人の割合		男性:94.2% 女性:99.0%	男性:75.8% 女性:84.1%	-	指標なし	↑	E		
		自殺者数		男性:15 女性:13	男性:15 女性:11	男性:9 女性:15	自殺対策計画	↓	C		
		こころの悩みを相談する	人と話したり、話を聞いてもらう人の割合	97.5%	95.1%	-	指標なし	→	E		
		家族とコミュニケーションをとる	家族と会話をしている人の割合	90.9%	94.3%	94.9%	後期高齢者健診質問票「ふだんから家族や友人とつきあいがあるか」	→	B		

第2次プラン重点目標に対する指標の評価 環境(全世代共通)

ありたい姿	重点目標	行動・生活様式	策定 (H23)	中間評価 (H28)	最終評価 (R3)	最終評価とする調査	目標値 (2022)	達成状況	評価(背景、要因など)	担当課
		目標値項目								
豊かな自然があり、ふれ合える	地域循環型を取り入れたまちづくり	リサイクル率	24.0%	24.7%	24.2%		31.0%	C	ごみの排出量は減少したが、集団回収の減少もあり、変化しなかった。	環境業務課
		資源物を集団回収している団体の数及び収集される資源物の量	296団体 3,290t	282団体 2,815t	191団体 1,461t		300団体 3300t	D	新型コロナウイルス感染症拡大の影響等により、集団回収の実施を取り止めた団体が多くあった。	
		一人一日あたりのごみの排出量	920g	884g	888g		880g	B	ごみの有料化や古着古布のステーション収集を始めたことなどにより燃やすごみの量は減少している。	
		「ばくばくさん」加盟店の数	62店	103店	100店	担当課管理登録簿による照合	100	B	地産地消の機運の高まりから、計画当初は順調に増加したが、新型コロナウイルス感染症拡大による外食自粛および閉店等の影響により、近年は減少傾向となっている。	農水産政策課
健康で安心(安全)に暮らせるまち	安全に気軽に出かけられる	通学路歩道消雪パイプ設置校	17	24	28		33校	B	目標値には届かなかったが、設置校数は確実に増えており、歩行者の安全に寄与した。	道路管理課
		セーフティーリーダー登録数	142	151	192		↑	A	各地域で交通安全活動への意識が徐々に高まっているためと思われる。	市民課
		ノンステップバスの導入数	29.0	39.4	69.4		75%	B	ノンステップバス(新車)を導入するバス事業者に対し、市から補助金を交付している。	交通政策室
		歩道・自転車道の段差等に困る人の割合	42.10%	-	-	指標なし	↓	E	-	-
		歩道・自転車道の街灯等に満足している人の割合	27.90%	-	-	指標なし	↑	E	-	-
	健康を支える環境の整備	ヘルシーサポーター企業数	9	-	-		200	E		健康課
		健康づくり支援店登録数	194	273	228	長岡地域振興局 健康福祉環境部調べ	↑	B	食生活の面から健康づくりを応援する飲食店・スーパー等の登録数は策定時より増加した。 ※健康増進法が改正され、令和2年4月より多数の者が利用する施設は原則屋内禁煙となり、令和2年度末に健康づくり支援店「禁煙・分煙部門」が廃止されたことで、令和3年度は平成28年度より登録数が減少している。	長岡地域振興局
	健康づくり井戸端会議の開催地区数	12	8	1		41	B	各地区部会組織の充実により、井戸端会議を用いずとも打合せを行う体制がかたちづくられてきた(福祉懇談会など)。	健康課	